

1. 件名：高性能容器(HIC)の $\beta$ 線放射線劣化に関する評価についての面談
2. 日時：令和3年4月5日(月) 13時30分～14時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、林田管理官補佐、市森係員  
吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与  
知見主任安全審査官(テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当1名(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力発電所 担当3名(テレビ会議システムによる出席)

#### 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、3月22日の第89回特定原子力施設監視・評価検討会における原子力規制庁からの指摘を踏まえ、高性能容器(以下「HIC」という。)の $\beta$ 線放射線劣化に関する評価等について、資料に基づき以下の説明があった。
  - HICの $\beta$ 線放射線劣化に関する評価について
    - ✓ 炭酸塩沈殿スラリーの積算吸収線量5,000kGy到達期間の評価方法
      - ◇ 吸収線量率評価方法の詳細
    - ✓ 積算吸収線量5,000kGy到達期間の評価結果
  - HICの放射線劣化に関する追加調査とその実施内容について
    - ✓ HIC内スラリーの密度測定
      - ◇ 密度測定作業の概要
      - ◇ 密度測定作業時の安全対策
    - ✓ HIC内スラリーの移替え
      - ◇ 移替え作業の概要
      - ◇ 移替え作業時の安全対策
    - ✓ 各作業の工程
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について、
  - 積算吸収線量の評価にあたり、全 $\beta$ 放射線量から間接的に評価対象とするHIC内のSr濃度を求めているが、東京電力は各HICのSr濃度については、測定及び推定データを取得済みであるため、当該データを用いた正確な評価を行い、その評価プロセスについても明確に示すこと。
  - HIC内表面の吸収線量率の評価条件として、炭酸塩スラリーの密度を設定しているが、HIC内の沈殿物の組成(種類、含有量及び化学形等)等の設定の前提条件を示すこと。また、計算に用いている数値が異なっている理由を明確に示すこと。
  - 個々のHICにおける保管施設収納時の表面線量率のデータについて、以前より要求している中、「計測していない」等の回答により未だに提示されていない状態。今一度回答の真意と、仮に測定している場合は、収納日や測定条件などを含めて今週中に提示すること。
  - HIC内スラリーの密度測定時の安全対策について、2018年度の同様の作業

実績を踏まえ、仮設ハウスで行うこととしているが、作業者被ばくの評価を含め、今回の作業条件に対して妥当な作業環境となっているか、改めて説明すること。

等を求めた。

## 6. その他

資料：

- 高性能容器(HIC)の $\beta$ 線放射線劣化に関する評価について
- 高性能容器(HIC)の放射線劣化に関する追加調査とその実施内容について